

11月・12月の管理ポイント



株式会社 トモグリーンケミカル

11月に入ると天気も数日周期で変化するようになってきます。強風と乾燥が続き、グリーンも予想以上に乾きやすくなってきます。夏場の乾燥とは違った意味での注意が必要です。また来春の萌芽に向けて貯蔵糖類を蓄積させる大事な時期です。糖類の補給もしっかりやっていきましょう。

ホームページアドレス
http://www.tomo-green.com/

第96号

 グリーンメカ

貯蔵糖類を確保して来春の萌芽期を乗り切る...

11月は、生育期のため糖類消費が激しい時期です。曇天が続く日は、光合成が不十分で、折角の施肥が完全にエネルギーにかえられません。グリーンメカを処理して糖類を補給し、12月の休眠期に備えましょう。貯蔵糖類が十分にあれば、耐寒性・耐凍性が増強され、来春の萌芽期は均一に芽出しします。
使用量：5～10ml/m² 1%以上散布

 プライマーセレクト

強風によるグリーン表面の乾燥に...

強風による乾燥の厳しい11月は、油断するとすぐにグリーン表面が乾燥しすぎてしまいます。プライマーセレクトを処理することによって、均一な水分分布を目指し、乾燥害からグリーンを守りましょう。
使用量：1～2ml/m² 200ml～1L/m²散布 散布回数 1ヶ月～1ヶ月半に1回

 コ・エンザ

芝生の色出しに...

補酵素の働きで植物内の活性を高め、晩秋にかけて色落ちする時期を遅らせます。また、古くなった下葉が焼けたようになり、その後のサッチング処理で、グリーン表層のサッチ(有機残渣)が取れやすくなります。
使用量：0.5～1.0g/m² 0.5～1.0%散布

 カラーメイト オーダータイプ

キーパーの好みでお選びください...

オーダーグリーン(#D、#20、#50、#70)：明緑～暗緑までにお好みのタイプを選んで頂けます。
リーフシールドの加用(150～200倍)により、色持ちもよく霜融けを早めることができます。
使用量：オーダーグリーン 50～100倍 150～300ml/m²散布

 リーフシールド

芝生の耐乾性・耐寒性を高めるには...

リーフシールド処理により葉面はコーティングされ、蒸散が抑えられます。葉面温度が下がるのを軽減し、また乾燥からも守ります。着色剤との組み合わせにより、葉面温度が上昇し、霜が早く溶けます。
使用量：200倍 150～200ml/m²散布

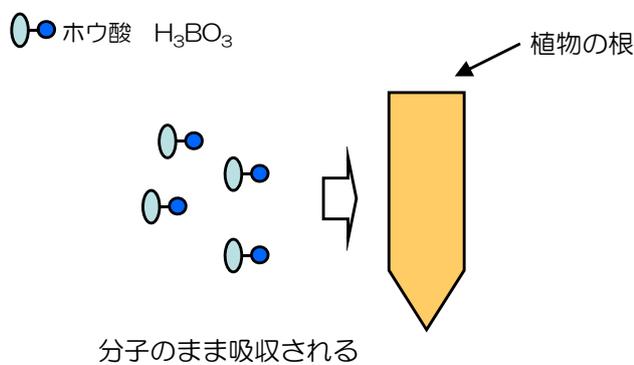
植物とホウ素の吸収の働き

微量元素の一つであるホウ素(B)は、植物に対してどのような働きがあるのか、良く判らない部分が多いミネラルの一つとされてきました。ここ数年の研究で、植物体内におけるホウ素の存在形態が明らかにされてきましたので、本稿ではその紹介をさせていただきます。

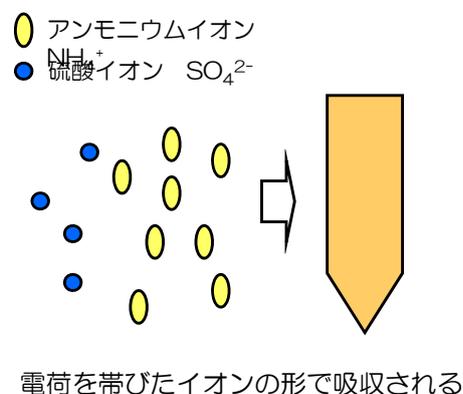
ホウ素の吸収形態

植物に吸収された場合、水溶液中(中性)では、電化を持たない(イオンの形ではない)分子状のホウ酸(H_3BO_3)の形で存在し、根からホウ酸の形で吸収されます。

ホウ素の場合(ホウ酸： H_3BO_3)

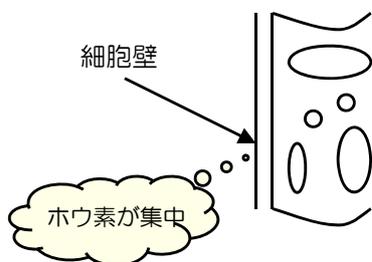


アンモニア態窒素の場合(硫安： $(NH_4)_2SO_4$)



ホウ素の植物体内での働き

1993年の間藤らによるヒマワリの実験、2001年のオニールらによるシロイヌナズナの実験結果から、ホウ素は植物体内の細胞壁形成において非常に重要な役割を果たしており、植物生長のための必須の働きであることが明らかになっています。



植物中のホウ素は、大部分が細胞壁中に集中しており、
 欠乏すると細胞形成に影響が出るので、根の生長阻害などが
 起こり、結果として窒素などの多量要素の吸収も同時に低下する。